



7/1

来年度オープン予定の上町農産物直売施設の店長に 「トマト店長」こと牧ヶ野芳男さんに委嘱状

古川町上町の道の駅アルプ飛騨古川に令和4年度オープン予定の上町農産物直売施設の店長に、「トマト店長」こと牧ヶ野芳男さんが就任することが決まり、このほど委嘱状が交付されました。任期は令和6年6月30日までの3年間。

牧ヶ野さんは、高山市の卸売市場や飛騨地域の食品スーパーなどで食品流通業に33年間従事。近年は販売促進のスペシャリストとして県内外で活躍されてみえます。今後、現・朝開町農産物直売施設の店舗運営を担いながら、移転先の施設のオープン準備にも取り組まれます。

牧ヶ野さんは「地元の農業生産者の皆さんを応援し、飛騨地域の農業振興や市内経済への波及効果が得られるように頑張りたい。ワクワクできる楽しい施設を目指し、地元の皆さんや観光客の皆さんに気軽に立ち寄っていただける場にできれば」と話されました。



7/3

日 宮川町種蔵の景観保全作業 本の貴重な農村の原風景を守る

宮川町種蔵地区で景観保全作業が行われ、地域住民やボランティア団体など総勢31人が汗を流しました。

種蔵地区には、毎年多くのファンが訪れていますが、人口減少と少子高齢化によって地域住民による草刈り等景観保全作業が難しくなっています。こうしたなかで、平成18年から地元の有志団体「種蔵を守り育む会」が中心となって、地域住民と共に景観保全等の集落維持作業を行っています。

この日は、地域住民や種蔵を守り育む会員、ぎふの田舎応援隊のメンバーらが、斜面の草刈りや棚田石積みの草取り作業に汗を流しました。

地元の有志団体を中心に、地域住民や外部から支援をしてくださる関係人口との連携により、日本の貴重な農村の原風景が未永く維持され、多くの人々の癒しの空間となることが期待されます。



7/5

行政相談委員を務めた中齋英雄さんに感謝状 新任の松井重隆さんに委嘱状を伝達

平成29年4月から2期4年間にわたり行政相談委員を務めた河合町の中齋英雄さんに対し、岐阜行政監視行政相談センターの杉浦勝所長から感謝状が贈られました。

杉浦所長は「ボランティアで、なかなか手がない中、4年間務めていただき感謝しかありません」と謝辞を述べ、中齋さんは「河合町は区長会や自治会がしっかりしていて、相談業務もそれほど多くなかったので感謝状には恐縮しています。無事に務められてほっとしている」と話されました。

また、後任として同町の松井重隆さんに委嘱状が伝達されました。「地域に貢献できることをやろうと引き受けました。区長会や自治会で対応しきれない細かなことへの対応ができれば。一生懸命やりたい」と松井さん。杉浦所長は「今後できるだけ長く務めていただけたら」とエールを送りました。



7/6

宮 市の食育事業「元気もりもり教室」で 城保育園の園児らが梅漬けづくりに挑戦!

特レポ

市の食育事業「元気もりもり教室～梅漬けを作ろう」が古川町の宮城保育園で行われ、年長児24人が梅漬けづくりに体験しました。

赤紫蘇の葉を茎から1枚1枚ちぎったり、ちぎった葉を塩もみする作業を行い、園児たちは紫蘇のアクで手を赤黒く染め、「こんな手になっちゃった」と見せ合ったりしながら力いっぱいもんでいました。

最後は、酢漬けた梅に塩もみした赤紫蘇を入れてビン詰めし、園児たちは漬け汁が赤紫蘇の漬け汁で真っ赤に変わる様子を見て、歓声をあげていました。作業の後は、レモン汁とリンゴ酢を加えた2種類の紫蘇ジュースの飲み比べも楽しみました。園児たちは「レモンの方が甘くておいしい♪」と笑顔を見せていました。今回作った梅漬けは12月の収穫祭でおにぎりに入れて味わいます。



7/8

児 東京オリンピック・パラリンピックの選手へ向けて 児童生徒が笑顔の自画像で応援

東京オリンピック・パラリンピックの選手たちを応援しようと、市内の児童生徒が描いた笑顔の自画像など150点が市へ寄せられました。

この取り組みは、「みんなの応援村」(実行委員長=鈴木康友浜松市長)が世界中の人に笑顔になってもらいたいと取り組んでいる「77億人えがおプロジェクト」の一環。県内では飛騨市だけがこのプロジェクトに参加しました。

今回は、古川小学校と古川西小学校の1年生児童、宮川小学校の全校児童、神岡中学校文化部の皆さんなど150人が応募。児童生徒を代表して6人が来庁し、都竹市長に作品を手渡しました。宮川小学校5年の中谷佳暖さんは「選手の皆さんに頑張ってもらいたい、元気になってほしいという気持ちで描きました。金メダルを取ってほしいと思いながら応援します」と話していました。



7/13

安 市道釜崎～朝浦線が開通 安心・安全な生活・通学道がいよいよ開通

神岡町釜崎地内を起点に神岡小学校および上朝浦地区を結ぶ市道釜崎～朝浦線が開通しました。この道路は延長627m、幅員7mの生活幹線道路で、平成20年から14年間をかけて完成しました。

従来通行していた道路よりも幅員が広がり通学バスや大型車両の安全なすれ違いが可能になり、勾配が緩くなって冬期の通行も安全になるなど、地域の利便性向上が期待されます。

開通記念式典では、新設された^{あひだに}不動谷橋でのテープカットや渡り初めが行われました。親子三代で渡り初めをした波岡正明さんは「地区の皆さんと道路建設の陳情に行くなどしました。この日を迎えられて大変嬉しく思います」、神岡小学校の児童を代表して式典に参加した甲谷瑠花さんは「普段は通らないけれど、今日の式典で初めて通ることができて嬉しい」と話しました。





飛騨市

Facebook 公式アカウント

飛騨市役所



まちの話題に掲載しきれないイベントや写真は市の公式 Facebook で配信中。

まちの話題
いろいろ

7/14

ハイパーカミオカンデ計画と飛騨市をアピール

宇宙物理学研究施設「ハイパーカミオカンデ」計画と飛騨市を紹介するラッピングをほどこしたトラックのお披露目が、道の駅「宙（スカイ）ドーム・神岡」駐車場で行われました。

トラックは、神岡運輸株式会社が所有する25トントラック1台で、無償で掲載に協力されました。星空やハイパーカミオカンデのイラストの他、「神岡の地下から宇宙の謎に挑む」「岐阜県飛騨市はハイパーカミオカンデ計画を応援しています！」などの文字が描かれています。

「このトラックの走る姿を見ることで全国の皆さんの理解が深まれば、同計画の予算の安定的な獲得や順調な施設整備、ノーベル賞など次の成果への原動力になる」と都竹市長。同社の小野和美代表取締役は「神岡を拠点に南は鹿児島県、北は青森県まで運行を行っており、広く皆さんに見ていただけたと思います」と話されました。



7/21

電子地域通貨「さるぼぼコイン」アプリ内に表示

飛騨市ファンクラブの会員証がデジタル化され、電子地域通貨「さるぼぼコイン」のアプリ内で表示できるようになりました。従来の会員証カードと同様、提示することで様々な特典が得られる他、さるぼぼコインを使った各種キャンペーンにも参加できるようになりました。アプリのプッシュ配信で飛騨市の旬の情報もお届けします。

2022年3月31日までの期間中は、ファンクラブ会員が市内の施設に宿泊される場合、会員一人につき宿泊1回あたり2000円分のさるぼぼポイントのプレゼントや、宿泊費の割引などの特典があります。

都竹市長は「コストや手間を大幅に省いて様々なサービスを提供できるようになり、また飛騨地域2市1村で使えるということで、大きな魅力になるのでは」と話しました。



7/21

永年 琴古流尺八教授・演奏家の田近さん 年の活動に対し日本三曲協会から功労表彰

琴古流尺八教授・演奏家で、鈴慕会岐阜支部を主宰する古川町の田近鈴鷺さんに対し、永年にわたり尺八の演奏家・指導者として活動し貢献されたとして日本三曲協会から功労表彰が贈られました。

田近さんは昭和43年から尺八演奏に取り組み、昭和63年からは人間国宝2代目青木鈴慕氏に師事。平成19年には鈴慕会認定の大師範9段（虚空庵）の資格を得られました。現在は6人の弟子の指導にあたり、令和3年4月からは鈴慕会岐阜支部長としてさらに活動の幅を広げてみえます。

「地方の者がこのような表彰をいただくのはめったにない事で、夢にも思っていませんでした」と田近さん。「尺八ほど面白い楽器はない」と熱心に話す田近さんに、都竹市長は「素晴らしい努力に心から感動しました。元気で道を究めてください」とお祝いを述べました。

